

知求会ニュース

2021年9月

第79号

◎ ドイツ政府より一等功労十字章授与、おめでとうございます！

橋本孝（国際学部名誉教授）先生が、本年5月にドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章を授与されました。長年のドイツとの交流の促進やドイツ文化の発展に尽力された功績によるものです。当会を代表して、お祝いを申し上げます。

◎ 掲載記事紹介

1. 下野新聞（令和3年6月12日）25面に、「ドイツから功労勲章」「交流促進」「文化発展」と題して、「グリム普及など長年の貢献評価」の内容で、とちぎ日独協会会長の**橋本孝**（国際学部名誉教授）先生の記事が掲載されました。
2. 広報うつのみや（令和3年7月30日発行No.1745号）8月号の52頁に、《はつらつ宮っこ》コーナーにおいて、「日本とドイツの心を開いた交流の懸け橋に」の内容で、**橋本孝**（国際学部名誉教授）先生の記事が掲載されました。
3. 下野新聞（2021年5月2日）20面に、《くらし 学ぶ》コーナーで「外国人保護者と確実に意志疎通」「教育用翻訳システム研究 教員の負担減、信頼醸成も」の内容で**若林秀樹**（国際学部客員准教授）先生の記事が掲載されました。
4. 下野新聞（2021年6月30日）21面に、《オピニオン》コーナーで「最新技術で言葉の壁破る」の内容で**若林秀樹**（国際学部客員准教授）先生の記事が掲載されました。
5. 下野新聞（2021年6月25日）3面に、《五輪前夜② コロナ禍開幕まで1カ月》コーナーにおいて、「開催の賛否」の題で「政府の構え世論に影響」「復興の理念「言葉だけ」」の内容で**中村祐司**（地域デザイン科学部教授）先生の記事が掲載されました。
6. 下野新聞（2021年5月15日）3面に、「自主夜間中学8月開校」の題による「賛同者増、1カ月前倒し」「宇大教員ら運営」の内容で**田巻松雄**（国際学部教授）先生らの記事が掲載されました。
7. 下野新聞（2021年8月9日）3面に、「とちぎ自主夜間中学が開校式」の題による「1期生34人、門出祝う」「来月から授業」の内容で**田巻松雄**（国際学部教授）先生らの記事が掲載されました。
8. 下野新聞（2021年8月25日）11面に、《オピニオン》コーナーの「気になるとちぎ 話題の人に聞く 208回」において、「自主夜間中学8月開校」の題による「多様性認め学べる場を」の内容でとちぎに夜間中学をつくり育てる会代表 **田巻松雄**（国際学部教授）先生の記事が掲載されました。
9. 日本経済新聞（2021年8月27日）41面に、《外国人「共生」の実相 狭き門⑤》コーナーで「日本語苦手 入試で挫折」「日本育ち、奨学金・特別枠乏しく」「学ぶ意欲・

才能生かせず」の内容で**田巻松雄**（国際学部教授）先生と**久富アリネリサ**さん（国際学部4年生）の記事が掲載されました。

10. まちぴあ（2021年7月 No.38）夏号の7頁に、《まちづくりリレーコラム vol.9》コーナーで「外国人が支える日本の食料自給」の内容で**坂本文子**さん（国際学研究科国際社会研究専攻第5期生・国際学研究科国際学専攻第1期生）のコラムが掲載されました。

◎ 国際学部だより

1. 下野新聞（令和3年6月6日）22面に、《5色のレポート 市内大学リレーコラム》コーナーの中で「宇都宮大国際学部」の題にて、「海外での活動 学び多く」の内容で**本多恵**（**ほんだ・けい**）さん（国際学部国際学科4年）のコラムが掲載されました。

◎ 新刊案内

1. **鄭安君**（国際学研究科国際学専攻第10期生）さんが、本年8月8日に『台湾の外国人介護労働者 雇用主・仲介業者・労働者による選択とその課題』を明石書店から刊行されました。（<https://www.akashi.co.jp/book/b589428.html>）

研究室訪問 54 第9号から国際学研究科に関する内外の先生方に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

博士録 55 第22号から国際学部、国際学研究科に関する同窓生に寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

知究人 36 第9号から特に、国際学部出身者で他大学院へ進学された方に、寄稿をお願いしたコーナー（**ちきゅうびと**）を設けました。

海外だより 31 第27号から国際学研究科、国際学部出身の海外在住者からの寄稿をお願いしたコーナーを設けました。

海外留学今昔 32 第35号から国際学部出身者および在学者を中心とした海外留学体験の寄稿をお願いしたコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**海外留学経験者**および**海外留学中の在学者の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

学生サロン 20 知求会ニュース第41号より現役学部生によるコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**現役学部生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

キャリア指南15 現役学部生に向けた企画として、宇都宮大学全学部から国際機関をはじめ、NGO・NPO や企業などで活躍する先輩方に執筆していただくコーナーを設けました。自薦・他薦を問いませんので、**キャリア指南にふさわしい卒業生の積極的な情報提供**を事務局にお寄せ下さい。

フォーラム 2021年の長月を迎えて、皆様忙しいことと思います。(原稿集めに苦労しています。)

「人と人の輪・和」と「人と学問の輪・和」

山梨英和大学人間文化学部 教授
李 尚珍

「こんにちは」、「안녕하세요(アンニョンハセヨ)」、「How are you?」、「你好」、「Bonjour」、「Guten Tag」。私が国際学部の在学中に授業で習ったり、友達同士で勉強のために意識して使ったりした言葉です。「国際学」という言葉に相応しく、アジアやヨーロッパ、アメリカなどの世界の国々の言語や歴史、社会、文化、芸術を学べる授業も友達も、そして、実際海外に学びに行く友達も多かったです。特に第1期生たちは同期同士や教職員との距離が近く、情報共有しながら楽しく学べる、「切磋琢磨」そのもののキャンパスライフでした。そのキャンパスライフには国籍や年齢、性別に関係なく「人と人の輪・和」が礎になっていて、さらに新たな「人と学問の輪・和」を創り出していたと思います。

いまもふと思い出すことがあります。当時、国際学部必修科目だった、中村真先生のご担当の授業「異文化間コミュニケーション」で多義図形（確かに「ルビンの壺」は覚えています）を見ながら、お互いにどう見えたのかを話し合ったり、慣れないパソコンを使う授業の課題を得意な友達を囲んで教えてもらいながら、あたふたと提出期限に間に合わせたり、自主的に読書会・映画鑑賞会を開いたりしながら、「共に学ぶ楽しさ」と「共に生きる喜び」を実感できる時間を過ごすことができました。

また、国際学研究科の丁貴連先生の授業では、改めて日本と韓国の関係、異文化理解と交流について深く考えたり、研究資料の収集方法や発表レジュメの作成方法などを一緒に工夫したりしながら、研究の大変さと楽しさに目覚めました。そして、丁ゼミで読んだ、ある1冊の本にいまに続く学問的衝撃を受けました。『柳宗悦』（鶴見俊輔著、1994年、平凡社）です。この本から哲学・思想・歴史・伝統・芸術・共生などの多角的な視点で学問を意識するきっかけを得ることができ、生涯にわたって付き合っていきたいと思う、柳宗悦（1889～1961）と浅川伯教（1884～64）・巧（1891～1931）兄弟に出会いました。

その研究成果は修士論文「浅川巧研究—彼の「朝鮮観」を手がかりとして—」（宇都宮大学大学院、国際学修士、2001年3月）と博士論文「浅川伯教・巧兄弟の朝鮮理解に関する研究—植民統治期における兄弟の朝鮮伝統工芸研究を素材として—」（お茶の水女子大学大

学院、人文科学博士、2008年3月)で評価を受けました。論文作成時は研究の大変さで心が折れそうにもなりましたが、指導教授・丁貴連先生をはじめ、研究過程で出会った多くの方々、何度も訪ねた柳宗悦と浅川兄弟のゆかりの地(日本民藝館や浅川伯教・巧兄弟資料館など)を思い出しながら、自分自身を奮い立たせ、私が研究することの意義を強く意識しました。

柳宗悦と浅川兄弟は、明治・大正・昭和の時代を生きながら、植民統治をする側とされる側になってしまった日本と韓国で、自然と人・人と人が共に生きることの大切さを説いてきました。

白樺派の活動を一緒に楽しんで盛り上げる仲間たちに恵まれていた柳宗悦と、山梨県の八ヶ岳麓の自然豊かな土地に生まれ、自然や人の命の大切さに気づきながら育った浅川兄弟は、平等であるべき人と人の関係が差別や排除によって崩れていく植民統治政策や帝国主義の社会情勢などに疑問を持ち、「人と人の輪・和」のために一人一人ができることを彼ら自身が地道に実践する生き方をしました。特に韓国伝統工芸に関する彼らの研究活動(蒐集、フィールドワーク、制作、講演、展示、著作、「朝鮮民族美術館」設立など)には、21世紀にも通じる、日韓交流や多文化共生、グローバリゼーションの「極意」があると思います。

私はいま、山梨英和大学に勤めながら、その極意を見つけて、研究と教育に活かしていくことを日々の楽しみにしています。

山梨英和大学は1889年にカナダ婦人宣教師団と地元の有志たちの協力による「山梨英和女学校」設立に始まった学校法人山梨英和学院の一つの学校です。山梨英和中高は現在も県内唯一のミッション女子学校で、「朝鮮独立運動」(1919年)に参加した韓国人女学生柳寛順(ユ・クァンスン)の母校・梨花女子高校(1886年にアメリカ人宣教師団によって設立)と姉妹校です。そして、この二つの学校を結ぶ人に山梨英和女学校に学び、浅川伯教との結婚後に、韓国に渡って当時の梨花女学校で英語と日本語を教えた三枝たか代氏がいまいます。

山梨英和大学では韓国や中国、ベトナム、ロシア、インドネシアなど世界中からの留学生たちが勉学に励み、様々な交流を楽しんでいます。私もその輪の中に入って、私が国際学部・国際学研究科の「人と人の輪・和」、「人と学問の輪・和」のもとで学んできたことを広めていけるように邁進していきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が終息されたら、ぜひ山梨英和大学に足を運んでください。富士山と南アルプスの山々に囲まれた自然豊かな、浅川兄弟のゆかりの地で、私がいままでに見つけた「極意」についてお話いたします。(完)

(国際学研究科 国際文化研究専攻 第1期修了生 / 国際学部 国際文化学科 第1期生)
(2021年8月25日原稿受理)

東南アジア支部だより

第 63 号から、タイ在住の**大畑美優紀**さん（国際学部社会学科第 1 期生・国際学研究科国際社会研究専攻第 1 期生）が発起人となり、国際学部同窓会および大学院国際学研究科同窓会の東南アジア支部としてニュースレターを創刊しました。2019 年 4 月から、年 4 回から年 2 回発行（4 月 1 日、9 月 1 日）の変更になりました。

今回の第 12 号の内容は、1. ご挨拶 2. お知らせ 3. 連載コラム～タイの昨今（第 12 回）～ 4. 同窓生リレーインタビュー 5. 連載コーナー ▶トコロ変わればザ★談会（第 5 回）▶狙え！インスタ映え！？（第 8 回）▶ともに感じる東南アジア（第 8 回）です。

EU 支部だより

第 38 号からイタリア在住の**松原真実子**さんによる知求会 EU 支部だより「Newsreel World」を発行してきました。今回の 39 号の内容は、1. イタリア メダルダッシュで「アリガトウ」？ 世界各国は東京五輪をこう見ていた ・イタリアにとって「我らの人生最高の五輪」だった ・ブラジルは今、東京五輪に対してのサウダージの中にある ・イスラエルにとって東京五輪が特別な大会となった理由 2 EU 支部だより 一上を向いて歩こう一です。配信方法は、画像が掲載されているために別便で配信します。ファイル容量が大きいことで、ニュースレターが受信できない場合にはその状況をお知らせください。

編集者のひとりごと

●編集者の正月明けの一年の計は、古文書を読めるようになることを掲げました。幸い、趣味の講座に「古文書入門講座」があり早々に申し込みました。半年コースを半分で学習するも、「古文書読解検定 3 級」に挑みましたが、悪戦苦闘の末に解答を提出しました。来月末に結果が出ますが、どのようになることやら・・・。

●すらすらと解答できなかった反省から、懲りずに新たな通信教育講座に申し込みました。今回は入念に下調べをしました。NHK 学園の生涯学習通信講座は学習段階に応じたコースが用意されています。初心者向けの「はじめての古文書」、少し経験のある方向けの「古文書を読む 基礎」、くずし字は読める方向けの「古文書を読む 応用」・「古文書を読む 応用ステップ 2」、かなり読める方向けの「古文書を読む 読解実践」などのコースがあります。検定の結果を問わずに、また、初心にかえって一から楽しんで学習していきます。

編集後記：2010 年 4 月 26 日から **知求会ニュースのバックナンバー**は **国際学部同窓会 HP** (<http://www.afis.jp>) で見られるようになっていきます。

同窓会会員の皆様へのお願い：**住所、勤務先および携帯電話番号、メールアドレスの変更の際は事務局へメールして下さい。**chikyukai@freeml.com
